２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL. ４

幼児教育研修（年齢別担任研修２歳児　第１回）　　受講者数１０１名

日時　令和３年６月８日（火）　１５：００～１７：００

場所　竹の塚地域学習センター

講師　彰栄保育福祉専門学校　　専任講師　　山梨　有子氏

【内　容】

保育者がかけた言葉で子どもの遊びが変わる。
～言葉をかける・かけない～２歳児の援助について考える

様々な遊びを通して保育者や友達とやり取りを楽しみ始める２歳児は、言葉を交わすことの楽しさを十分味わえるようにすることが重要である。子どもがどのように思いを伝え、遊びを広げていくのか保育を振り返り、学びを深めていく。

講師　山梨　有子氏

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- 事例から２歳児の発達や遊びの特徴など、具体的なエピソードや写真で場面を想像しやすく、自分の保育の振り返りをすることができた。子どもの姿を想像しながら、受講することができた。
- ２歳児は他者への関心が高まり、自分の身の周りのことに興味をもち自分でしようとする年齢であることを学んだ。保育者のかかわり方で成長が左右されるため信頼される身近な存在となれるよう応答的な関わりを心がけていきたい。
- 子どもの生活の基盤となる養護は「安心」「心地よい」ということを実感できる土台があることだと学んだ。この子の気持ちや願いは何だろうと目のまえにいる子の要求や思いを理解し受け止めていきたい。
- 乳児期は五感を使って遊んでいることを学んだ。今後の保育で「見守ること」と「保育者の働きかけ」のバランスが取れているかを振り返り、今後の保育に活かしていきたい。
- リフレーミング（ポジティブな言い換え）は保育者の神髄という言葉が印象に残った。子どもの問いかけにすぐ言葉を返すのではなく、子どもが自発的に考え、気づけるような声かけをしていきたい。

＊　ご意見・ご感想

・写真や動画に合わせた解説がとても興味深く分かりやすかった。
・日頃の保育で知りたかった「あそび」について様々な話が聞けて良かった。

２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.４１

幼児教育研修（年齢別担任研修２歳児　第２回）　　受講者数９９名

日時　令和３年１１月１１日（木）　１５：００～１７：００

場所　竹の塚地域学習センター　４階ホール

講師　彰栄保育福祉専門学校　専任講師　山梨　有子氏

【内　容】

保育者がかけた言葉で子どもの遊びが変わる。

～言葉をかける・かけない

２歳児の援助について考える～

様々な遊びを通して保育者や友達とのやり取りを楽しみ始める２歳児は、言葉を交わすことの楽しさを十分味わえるようにすることが重要である。子どもがどのように思いを伝え、遊びを広げていくのか保育を振り返り、学びを深めていく。

講師　山梨　有子氏

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・子どもの遊びに余韻を残すことが大切だと学んだ。食事や午睡など活動の切り替え場面で遊びが続けられる場所を確保するなど、子どもが満足できるよう配慮して保育していきたいと思う。

・保育者が子どもの遊びの様子を見ながら環境を少しだけ変えるなど、用意することで遊びが広がっていくことを学んだ。子ども同士の会話を聞き、さりげなく玩具の用意をしたり「一緒に探しに行こうか」と保育者から誘って、場面に適した関わりをしていきたい。

・子どものつぶやき（願い）に耳を傾け、少しでもそのイメージに近づくような遊具を探していくことの大切さを学んだ。子どもの思いに共感して、保育者も一緒にやり取りを楽しむよう心掛けたい。

・お風呂マットやタイヤ、携帯ベンチなど、汎用性の高いものを遊びに活用することで、子どものイメージが遊びの中で膨らむことを学んだ。身近にある汎用性のある遊具を見つけて、保育の中に取り入れていきたい。

・子どもがどんなことを考え、どんな遊びをしたいのかという捉え方は、保育者ごとに違い、援助の仕方も変わることを学んだ。子どもを理解しようとする姿勢と子どもの目線になって考えることを心掛けて担任同士でしっかり共有して保育に活かしていきたい。

＊　ご意見・ご感想

・子どもは遊びの中で、五感を使っているということを改めて感じた。今後は子どもの遊びをよく捉えて、今、何を感じているのかを保育者も感じていきたい。

２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.69

幼児教育研修（年齢別研修　２歳児　第３回）　　受講者数　１１９名

日時　令和４年２月１日（火）～２月１０日（木）オンデマンド研修

講師　彰栄保育福祉専門学校　専任講師　山梨　有子氏

【内　容】

保育者がかけた言葉で子どもの遊びが変わる。

～言葉をかける・かけない～２歳児の援助について考える～

様々な遊びを通して保育者や友達とやり取りを楽しみ始める２歳児は、言葉を交わすことの楽しさを十分味わえるようにすることが重要である。子どもがどのように思いを伝え、遊びを広げていくのか保育を振り返り、学びを深めていく。

【受講者の感想】

＊ 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- 保育者の一言で、子どもの遊びが変わってしまうことを改めて感じた。いいところ探しをしてポジティブな言い換えをするなど、子どものやりたい気持ちを支える言葉かけを実践していきたい。
- 子どもを褒める時は、子どもの嬉しい気持ちを受け止めて共感することが大切だと学んだ。自分は、どのような褒め方をしていたのかなと自らの保育を振り返ることができた。評価を伴う「上手だね」という褒め方ではなく子どもが感じている「うれしいな」という気持ちを受け止めて共感していきたいと思った。
- 発達を支えるとは、先走りして方法を教えるのではなく、子どものやりたいことを知り、できないところにはしごをかけて支えることであること学んだ。子どものやりたいことを尊重し、子どもが自分自身でできることを支える環境づくりや言葉かけを行っていきたい。
- ５領域の保育のポイントを教えてもらい、発達の再確認と保育を見直すことができた。今まで見守りと働きかけの仕方で迷いがあったが、子ども達との信頼関係を大切にして、共感していくよう心掛けたい。担任同士で情報を共有し、楽しい保育をしていきたい。
- 子どもを見守るということは、この子はどんな思いで遊んでいるのかなと想像し、遊びの継続への見通しをもち任せることである。という講師の言葉が印象に残った。子どもの良いところを探すことや子どもの行動を肯定的に捉えることを意識していきたい。声かけの仕方を工夫することで子どもの受け止め方が大きく変わってくるのだと感じた。
- 遊びのイメージを膨らませる遊具選びでは、汎用性の高いものを用意して、五感を刺激するものを用意することが必要であることを感じ、遊具を用意する際に気を付けていきたいと思った。
- 保育はチームで行うものという話から、日ごろから、子どもたちのことを保育者間で共有することを大切にしていると再確認できた。園内の子どもたちの成長や様子も感じることができるので、これからも続けていきたい。
- 講義に入る際に、前回の講義内容を復習してから講義が進んだので大変内容がわかりやすかった。